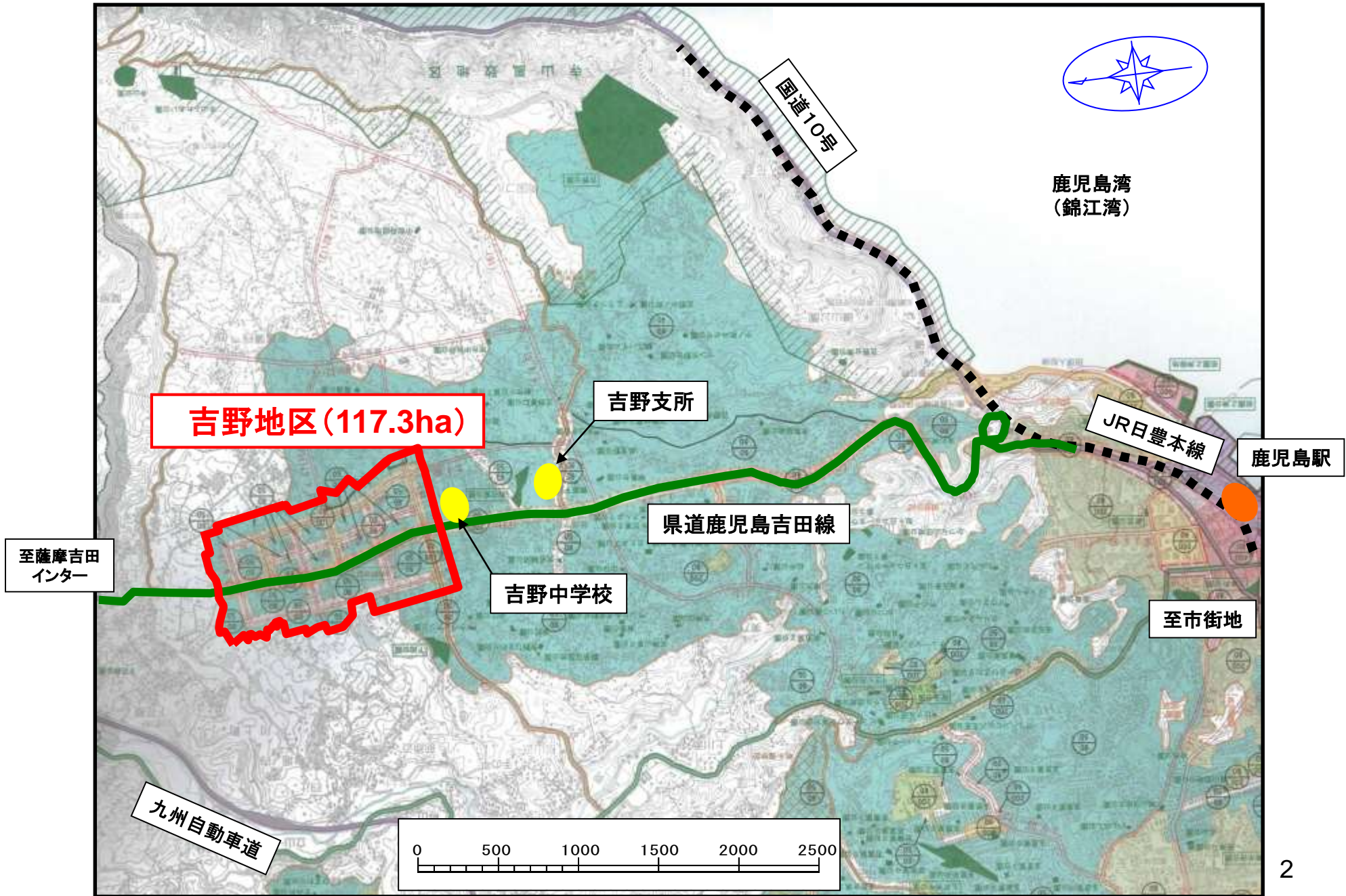


都市再生整備計画

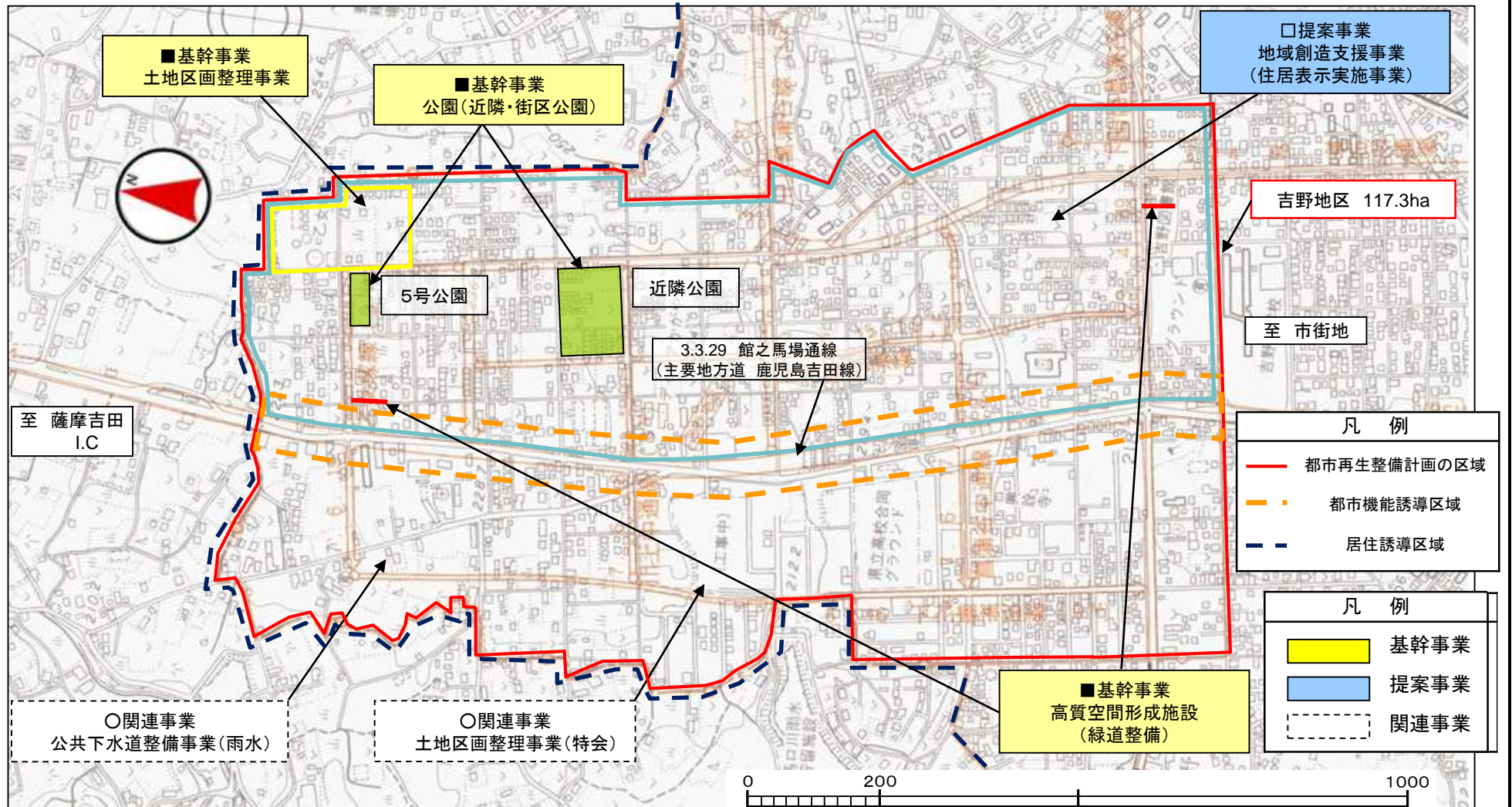
吉野地区

事後評価（説明資料）



吉野地区(鹿児島県鹿児島市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	市民生活を支える機能性の高い快適なまちづくり	代表的な指標	地区内公園利用者数 (人/日)	210 (H29年度)	→	250 (R4年度)
			居住人口 (人)	42,051 (H29年度)	→	42000 (R4年度)
			交通環境の不満足度 (%)	52 (H29年度)	→	45 (R4年度)



都市再生整備計画（吉野地区）について

○計画当初（H30年度）

社会資本整備総合交付金の基幹事業の1つとして、都市再生整備計画事業として実施
鹿児島市における機能性の高いまちづくり（第2期）

基幹事業		H30	R元	R2	R3	R4
▶都市再生整備計画事業 （吉野地区）	区画整理	○	○	○	○	-
※事業名：都市再生整備計画事業	公園	-	-	○	○	○
効果促進事業						
	緑道整備	○	-	○	-	-
	住居表示実施	-	-	-	-	○

旧都市再生整備計画事業については、
個別補助へ移行後も基幹事業として実施

制度再編

○制度再編後（R2年度以降）

個別補助事業（都市構造再編集中支援事業）として、実施

個別補助 都市構造再編集中支援事業

基幹事業		H30	R元	R2	R3	R4
土地区画整理事業	区画整理	○	○	○	○	-
公園	公園	-	-	○	○	○
高質空間形成施設	緑道整備			○	-	-
提案事業						
地域創造支援事業	住居表示実施			-	-	○

都市再生整備計画に位置付けられた
事業のうち立地適正化計画に基づく
事業に係る支援制度を個別補助化し、
集中的な支援を行うため、

R2より

都市構造再編集中支援事業を創設
（40%→45%へ国費率UP※）

※R2以降の都市再生整備計画事業のみ

R2年度以降に社会資本総合整備計画の
「効果促進事業」で実施予定であった
事業については、新たに個別補助計画に
追加

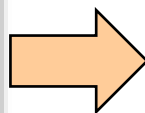
緑道整備 → 基幹事業「高質空間形成施設」

住居表示 → 提案事業「地域創造支援事業」

事業の実施内容

土地区画整理事業

整備前



整備後



土地区画整理事業の実施により…

狭隘道路が解消され、消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、地域住民の安心・安全の確保に貢献した。

公園

街区公園(5号公園)



公園整備により…

地域住民の憩いやコミュニティの場となる公共空間と災害時の一時避難場所が確保された。

整備前



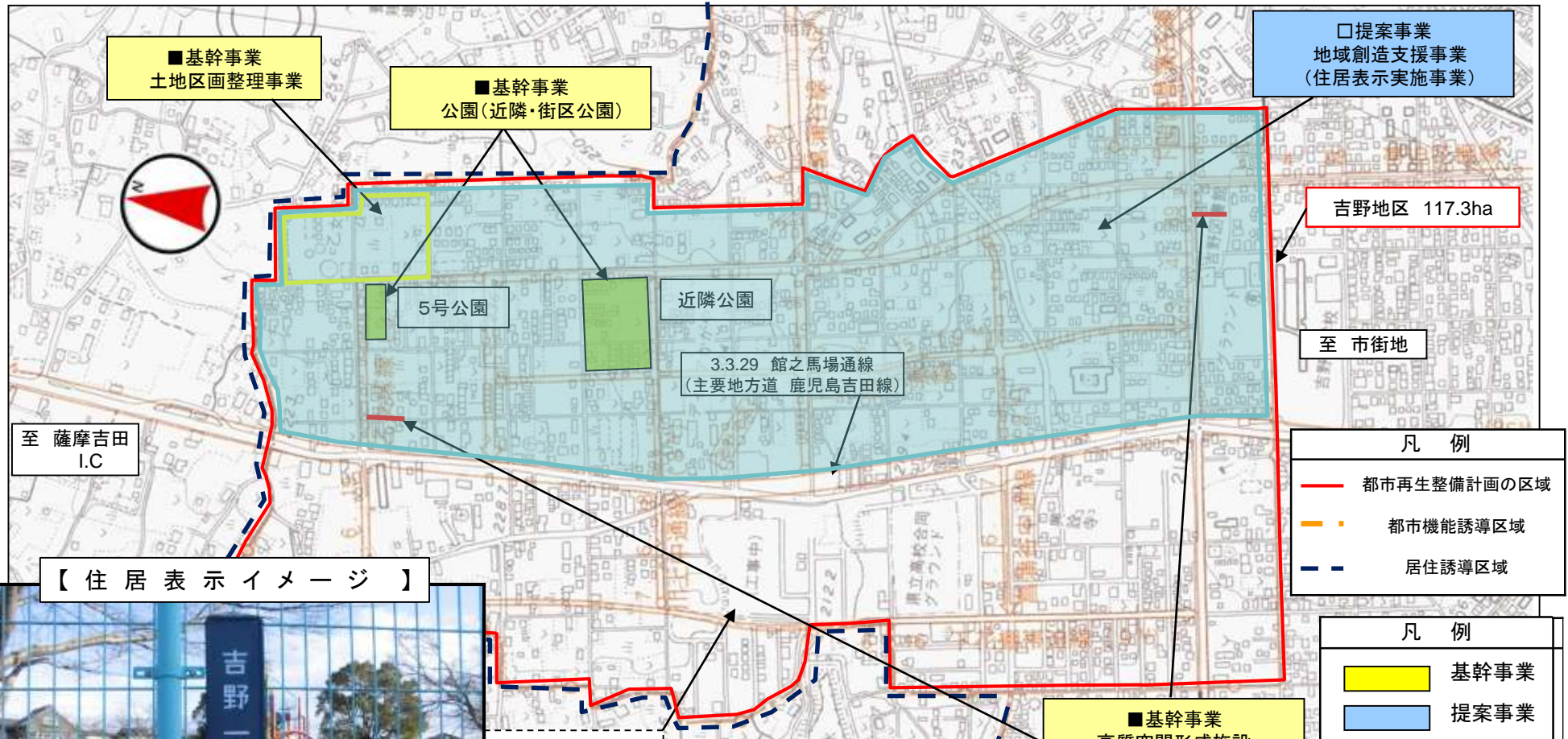
整備後



緑道整備により…

歩行者空間への車両進入を抑制し、歩行者の交通安全が確保されるとともに、都市景観の向上が図られた。

地域創造支援事業（実施中）



住居表示により…

住所を分かりやすくすることで住民の利便性が向上するとともに、緊急車両の到着時間短縮が図られる。⁹

事後評価シート（指標）

指標1：地区内公園利用者数

土地区画整理事業区域内における公園利用者数

朝方（7～10時）と夕方（16時～19時）の利用（3時間×2回＝6時間）を1日におけるピーク時として計測し、それを3日間行う。

⇒公園毎に1日の利用者数の平均値を算出し、各公園の平均値合計を公園利用者数とする。



従前値（H29時点）：210人／日（6公園）

評価時には5号公園が開設しており、全部で7公園となることから、

利用者が1.2倍（7公園／6公園≒1.2）増加すると見込んで目標値を設定。

210(人／日) × 1.2 ≒ 250(人／日)

従前値
(H29年)

210人／日

目標値
(R4年)

250人／日

指標1：公園利用者数

評価時（令和4年度）



計測日

平日に2日、日曜日に1日実施（前回計測時と同様）

公園利用者の多くが、朝方は運動・グラウンドゴルフなどを楽しむ高齢者、夕方は遊具などで遊ぶ親子であった。

67人増

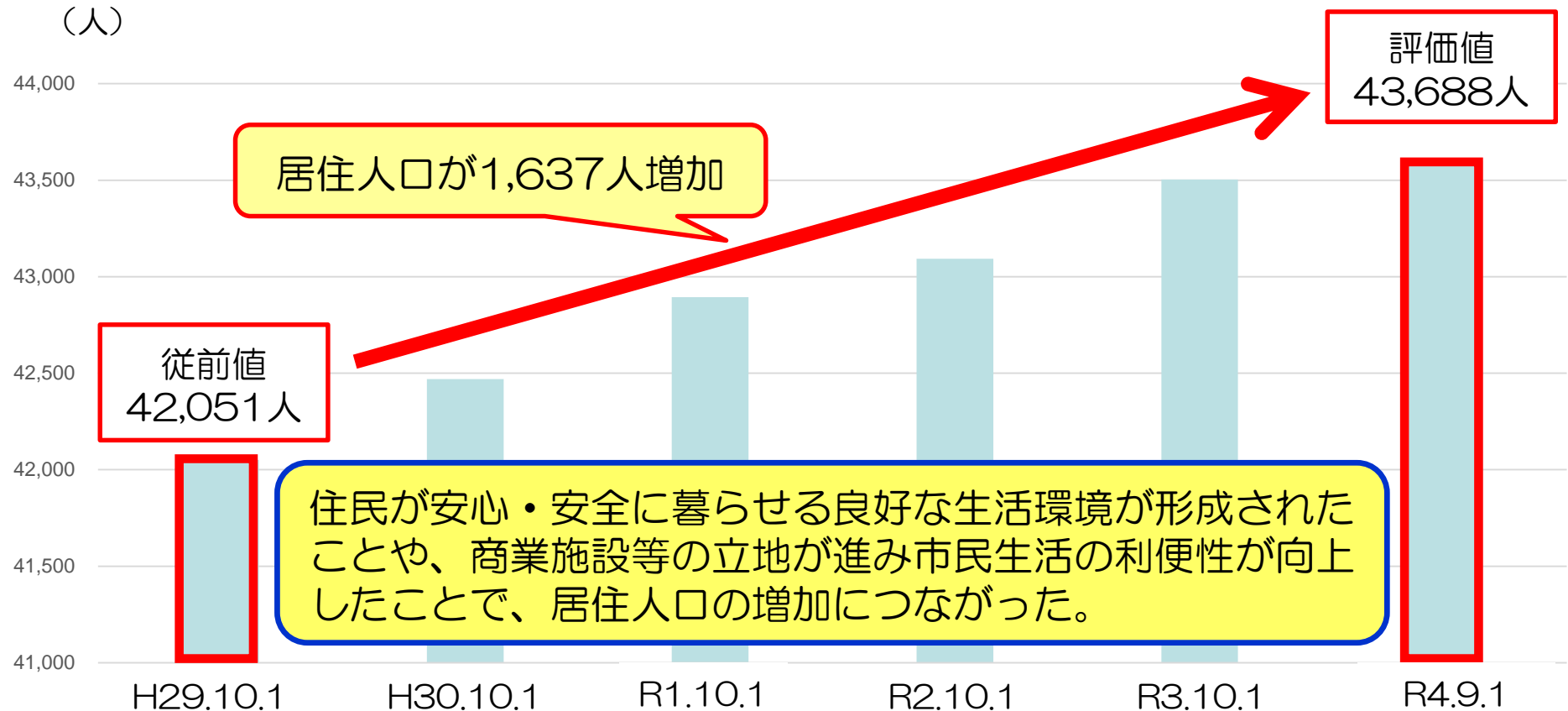
目標値+27人（1公園あたりおよそ4人の増）

従前値 (H29年)	目標値 (R4年)	評価値 (R4年)	達成度
210人/日	250人/日	277人/日	○

土地区画整理事業の推進に伴い良好な居住環境が形成されたことで、周辺地区を含む居住人口が増えたことから、公園利用者が増加した。

指標2：居住人口

吉野地区土地区画整理事業施行区域内及び周辺地域に居住する推計人口（人）
 （吉野町・川上町・下田町・吉野一丁目・吉野二丁目）【※市統計データより】

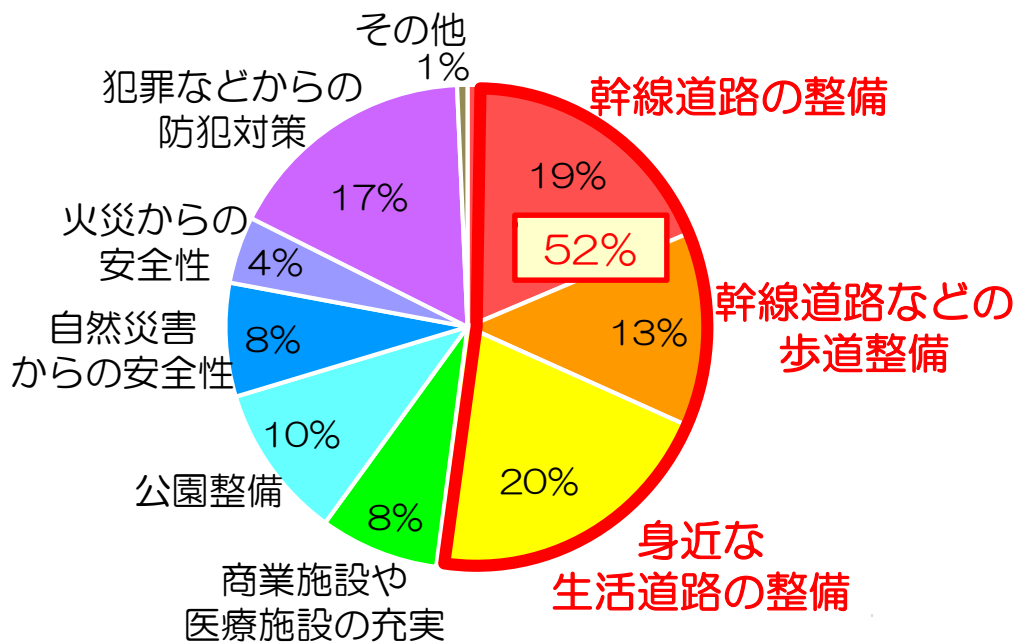


従前値 (H29年)	目標値 (R4年)	評価値 (R4年)	達成度
42,051人	42,000人	43,688人	○

指標3：交通環境の不満度

吉野地区土地区画整理事業の施行区域にかかる町内会の役員を対象にアンケート調査を行い、「周りの住居環境のうち特に良くなって欲しいもの（複数回答）」の質問に対し、「**幹線道路の整備**」「**幹線道路などの歩道整備**」「**身近な生活道路の整備**」と回答した数の割合

従前値（平成29年度）



交通環境の不満度

従前値（H29年度）	52%
------------	-----

目標値設定

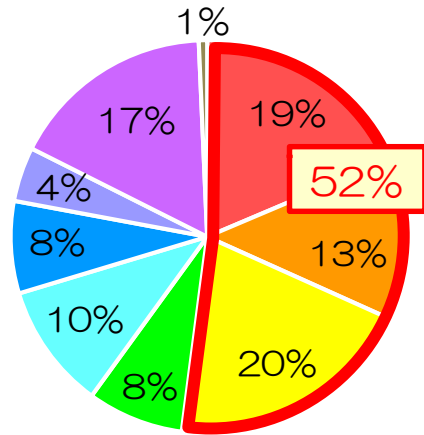
29年度末時点での道路整備の進捗率が90%で残りが10%であることから、不満度が従前地より10%減少すると見込んで設定。

$$52\% \times 0.9 \div 47\% \div 45\%$$

目標値（R4年度）	45%
-----------	-----

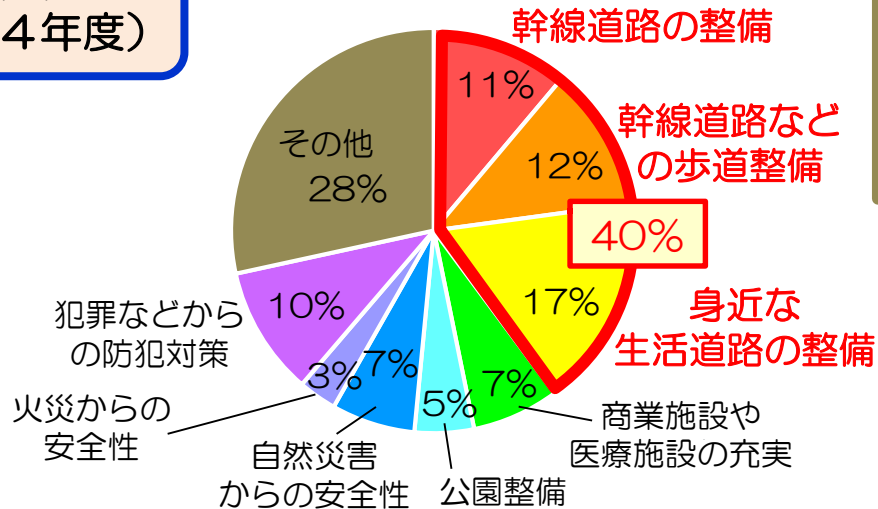
指標 3：交通環境の不満度

従前値
(平成29年度)



従前値 (H29年度)	52%
目標値 (R4年度)	45%

評価値
(令和4年度)



その他の内容

- 道路標識、ロードミラーなどの交通安全対策 (16%)
- 地域コミュニティの充実 (6%)
- 公共交通機関の充実 (5%)
- など

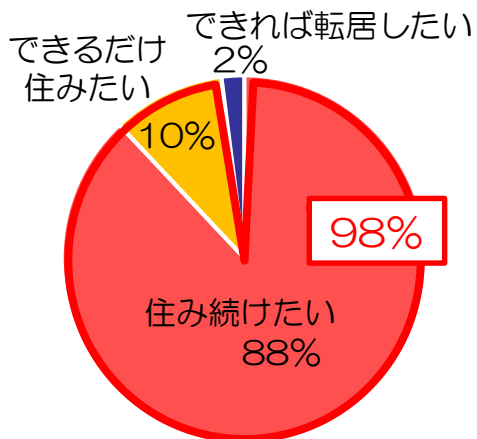
交通環境の不満度		達成度
評価値 (R4年度)	40%	○

狭隘道路の解消や歩道整備により、歩行者等の安全性を確保したことで、目標達成につながったが、住宅地周辺においては交通安全施設が不十分な箇所も見受けられるため、道路標識やロードミラーの設置等、交通安全対策を図る必要がある。

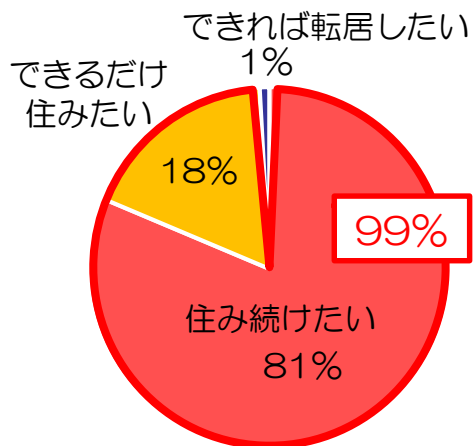
その他の数値指標 1：住民の定住意向

「あなたは今後も吉野地域に住み続けたいですか」の質問に対し、「住み続けたい」「できるだけ住みたい」と回答した数の割合

従前値
(平成29年度)



評価値
(令和4年度)



従前値 (H29年度)

98%



定住意向

評価値 (R4年度)

99%

自然災害からの安全性や交通における利便性など、吉野地域がもつ立地に加え、土地区画整理事業の推進により良好な生活環境が形成されたことで、居住人口が増加していることから、まちに住み続けたいと思う定住意向を維持することができた。16